

O2-012

久留米市での3, 4か月個別健診における「健やか子育てガイド」の有用性について

七種 朋子¹、河野 由美²、秋山 千枝子³
 阪下 和美⁴、前川 貴伸⁵、山下 裕史朗¹、
 小枝 達也⁶

- ¹ 久留米大学小児科
² 自治医科大小児科
³ あきやま子どもクリニック
⁴ 東京都立松沢病院
⁵ 国立成育医療研究センター総合診療部
⁶ 国立成育医療研究センターこころの診療部

【目的】

新型コロナウイルス感染症の影響に伴い全国で集団での乳幼児健康診査ができない状態が生じ、流行再燃時の対応として個別健診が選択肢となる。健診では対象者の健康状況のみでなく、保護者の健康状況も確認し保健指導を行う必要があり、共通の健診票を用い、健診の標準化とレベルの向上を図らなければならない。本研究では4か月の個別健診時に養育に関連する質問紙(以下質問紙)を用いて保護者の子育て全般を評価し、健やか子育てガイド(以下ガイド)に沿った指導を行うことにより、個別健診の充実を図ることを目的とした。

【方法】

質問紙の内容は栄養、1日の行動と睡眠、遊び・メディア、菌のケア、安全、子育ての大項目6個、小項目34個。ガイドには同項目6個についてそれぞれ指導内容を記載した。研究期間は2022年9月から2023年2月、久留米市の3, 4か月児の個別健診において、194名の保護者を対象に実施。保護者が質問紙に回答し、健診時に診察医がガイドに沿って保健指導を行った。健診後にガイドを用いた健診に対するアンケート調査を保護者、健診を担当する医師に行った。

【結果】

対象者は194名。子どもにメディアを時々またはいつも見せると回答したのは117名と高率であり、保護者がメディアを時々またはいつもあると回答したのは181名、子どものお世話をしているときにも保護者自身がスマホや動画を利用するという人は142名であり、保護者も高率にメディアを利用していることがわかった。子育ての情報源は182名がインターネット、SNSであると回答、睡眠に困っていると回答した人は20名、一人で育児をしていると感じる16名、子どもにイライラする26名、怒鳴ってしまう9名、助けて欲しいと感じる24名、金銭的な心配がある19名と精神的疲弊・苦痛を感じている保護者を認めた。健診後の保護者へのアンケートで、ガイドが理解しやすかったと回答したのは186名、役に立つと回答した保護者は184名と理解しやすく、有用であることがわかった。メディアが乳児期から遊びの1つとして提供され、保護者も同様にメディアを大きな情報源としている傾向があり、メディアで得た不確かな情報が不安をさらに増幅していることが危惧される。

【結論】

標準化された質問紙・ガイドを用いることで、保護者の不安・精神的な疲弊を早期に発見し、健診を正確な情報提供・アドバイスの場として生かし、健診の標準化とレベルの向上を図ることができると考える。

O2-013

9・10か月児個別健診での「健やか子育てガイド」の有用性と養育上の心理社会的課題

河野 由美¹、前川 貴伸²、阪下 和美³、
 秋山 千枝子⁴、七種 朋子⁵、小枝 達也⁶

- ¹ 自治医科大小児科
² 国立成育医療研究センター
³ 東京都立松沢病院精神科
⁴ あきやま子どもクリニック
⁵ 久留米大学小児科
⁶ 国立成育医療研究センター こころの診療部

【目的】

9・10か月児個別健診において、1) 保護者への養育に関連する質問紙(以下質問紙)と健やか子育てガイド(以下ガイド)の使用の有用性を検討すること、2) 養育上の心理社会的課題のうち、電子メディアと睡眠の関連、養育困難感と子どもの発達行動特性との関連を検討することを目的とした。

【対象と方法】

1) 三鷹市医師会小児科医会の医療機関で9・10か月児健診を受診した保護者と担当した医師を対象とした健診後アンケートにより検討した。2) 質問紙の回答から心理社会的課題を抽出し、睡眠の問題とメディア使用との関連、子どもの発達行動特性と親の養育困難感との関連について、二項ロジスティック回帰分析により、性別、同胞の有無、母の年代、経済的困難、栄養法、主たる養育者を調整後のオッズ比(AOR)と95%信頼区間(CI)を求めた。研究は倫理審査の承認、保護者の同意を取得して実施した。

【結果】

1) 健診後アンケート回答した保護者261名中9割以上が、質問紙の回答の容易さ、医師の説明、ガイドの説明のわかりやすさに肯定的であった。過去の健診と比較して「本日の方が良かった」が106名(41%)、「これまでと変わらない」が149名(57%)、記入なしが6名(2%)であった。回答した医師6名中5名が内容は妥当とし、ガイドで示される形式の健診を行うことに肯定的であった。2) 259名の保護者から質問紙の有効な回答が得られた。質問紙の項目のうち、子どもがTV、DVD、ビデオ、動画を観るかの問いで、時々みる145名(56%)、いつもみる62名(24%)とメディア使用は高率であった。111名(43%)が子どもに「いらいらする」ことが時々あり、2名はよくあると回答した。56名(22%)が「もう無理と感じる」ことが時々あり、2名はよくあると回答した。メディアの使用は睡眠の困り事と、AOR(CI):2.10(1.07-4.12)で関連を認めた。「いらいらする」と思うことがあると子どもの特性に有意な関連を認めなかった。「もう無理と感じる」ことがあるは、大人が対応に困るほどの子どもの不機嫌[AOR(95%CI):6.353(1.574-25.64)]と関連していた。

【結論】

9・10か月児個別健診での、心理社会面の評価と保健指導を標準化するために作成した質問紙とガイドの使用は、受診した保護者から集団健診と同等かそれ以上の良好な評価が得られた。質問紙の解析から、電子メディア使用と睡眠の困り事、「もう無理と感じる」養育困難感と大人が対応に困るほどの児の不機嫌とに関連を認められた。